

(完2、可2)

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学  
第107回経営協議会議事要録

日 時 令和5年3月17日(金) 13:00～15:20  
場 所 北陸先端科学技術大学院大学 第1・第2会議室(JAIST国際セミナーハウス1階)  
出席者 寺野稔(議長)、永井由佳里、飯田弘之、西山和徳、黒田壽二、細野昭雄、  
井熊均、岩澤康裕、小俣一夫、金井豊、中尾正文及び永田晃也の各委員  
欠席者 小原奈津子、仲井培雄、馳浩の各委員  
オブザーバー 三宅幹夫監事、水野一義監事、内平直志学系長、鶴木祐史学系長、  
小矢野幹夫学系長、松見紀佳学系長及び吉丸尚宏石川県企画振興部課長

議事に先立ち、議長から、事前に送付した令和4年11月25日開催の第105回経営協議会の議事要録(案)及び令和4年12月6日付け開催の第106回経営協議会(書面付議)の議事要録(案)について、資料1-1及び1-2に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

## 議 事

### <審議事項>

#### 1 エクセレントコア拠点等の設置・廃止について

永井理事から、エクセレントコア拠点等の設置・廃止について、資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

#### 2 地域イノベーション推進センターの設置について

学長から、地域イノベーション推進センターの設置について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

#### 3 第4期中期目標・中期計画における令和5年度年度計画について

評価室長から、第4期中期目標・中期計画における令和5年度年度計画について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

#### 4 令和5年度評価実施計画の策定について

評価室長から、令和5年度評価実施計画の策定について、資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、学外者による検証の実施に当たり、大学経営の視点からも検証することが必要との考えから、経営協議会学外委員の方々に検証委員をお願いしたい旨、学長から併せて説明があった。

## 5 令和5年度予算編成について

会計課長から、令和5年度予算編成について、資料6に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

## 6 学内規則の制定改廃

### ・学則等の一部改正について

総務課長から、学則等の一部改正について、資料7に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

### ・職員就業規則等の一部改正について

人事労務課長から、職員就業規則等の一部改正について、資料8に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

## <報告事項>

### 1 令和4年度監事監査結果報告について

三宅監事から、令和4年度監事監査結果について、資料9に基づき報告があった。

### 2 令和4年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告について

学長から、令和4年度監事監査における改善すべき事項への対応状況について、資料10に基づき報告があった。

### 3 令和5年度国立大学関係予算（政府予算案）について

会計課長から、令和5年度国立大学関係予算（政府予算案）について、資料11に基づき報告があった。

### 4 令和5年度運営費交付金予定額について

会計課長から、令和5年度運営費交付金予定額について、資料12に基づき報告があった。

### 5 令和4年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」開催報告

学長から、先日開催された令和4年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」について、資料13に基づき報告があった。

### 6 令和5年4月入学入試状況について

教育支援課長から、令和5年4月入学入試状況について、資料14に基づき報告があった。

### 7 最近の本学の活動状況について

広報室長から、最近の本学の活動状況について、資料15に基づき報告があった。

## 8 組織図について

学長から、令和5年4月からの組織図について、資料16に基づき報告があった。

### <意見交換>

#### 1 第4期2年目（令和5年度）に向けた取組みについて

学長、永井理事及び飯田理事から、第4期中期目標期間の2年目（令和5年度）に向けた取組について、資料17-1～17-3に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

- ・東京サテライトオフィスをこれから研究にも使用するという事だが、その後の計画は何かあるのか。施設の中の面積的な部屋割りもこれから限られることになると思うが。  
⇒まずは一年間の試行を実施し、その活用状況を踏まえて令和6年度以降の本格実施への検討を予定している。研究のある拠点としての活性化を目標としている他、産学連携拠点としての活用も視野に入りたいと考えている。スペースが限定されることから、今の所はコンピューターを使って出来る話に限定し、実験装置等は置かないこととしている。  
メインの研究は石川で実施することが前提であることから、東京に置くことでその研究がより活性化する、あるいは他機関との連携が図れるといったような明確なメリットがある場合など、活用条件をやや限定してスタートさせているが、これが東京地域の学生獲得や次のファンド獲得に繋がっていけばと考えている。
- ・教育の方で、折角10個の新研究領域を設けているのに、出口の学位は知識科学・情報科学・マテリアルサイエンスの3学位で結局従来と同じように見えることが、古典的で何か勿体無いという感じがする。産業界の知恵を入れてといったことを枕詞に、工夫できるのではないか。  
⇒学位については設置審に関わるので何とも難しい部分であるが、金沢大学と一緒に実施している融合科学についてはその辺りを何とかならないか、もしくは別の形で魅力あるプログラムを作ってという事になると思う。産業界からのご意見やお知恵を拝借するという部分も入れ込んで上手い形を作れないか、是非検討させていただきたい。
- ・今後研究をより向上させて世界レベルにするための方策として、チーム研究という形で研究領域のチームを編成するという事を説明されていたと思うが、先生方でそこを理解している方がどれだけいるかが気になる。どのように意識改革を図る考えなのか、その現状と展望について伺いたい。  
⇒チームサイエンスという概念が出た経緯は、まず、研究力分析を実施した所、大型科研費等の獲得において講座制のような体制の方が有利だが、本学はその体制を採らず若手の先生が早く自立するような主体性を活かす研究スタイルを採っているため、チームサイエンスという構想を持って大きなビジョン・研究目標に向かうマインドを常に持ち続けるべきである、という示唆があった。研究領域はあくまでボトムアップの組織なので、

そうではなく、研究目標に応じて、あるグループは研究センター、あるグループはエクセレントコアなどといった、各支援体制をこちらとしては準備するという構想で、学内に留まらず海外や学外ともこのようなことを想定しているが、少なくとも学内で複数の方々にはまず協同の研究に取り組んで貰うマインドを持って貰おう、という所でスタートしている。

一応、研究ポートフォリオというものを代替えで作っており、先生方はリサーチマップというものを公開しているので、そこから抜粋したようなキーワードで先生方の特徴、どういうカテゴリーでその先生の研究がタイプ分けできるかという部分は見ている状況である。

なお、JAIST未来ビジョンの中でも、キーワードとして「共創」という言葉を挙げており、新しい分野を切り拓くには、やはり共創、先生方の新しい組み合わせで、それぞれの持っている知見を組み合わせる新しいものを生み出して貰うという事が大切と思っている。敢えて大学執行部からはあまり大きなプレッシャーをかけないで所属する研究領域等を自由に決めて貰い、そういった中でより新しい先生方の出会いになってというものを、新しい研究領域長を中心として、特に活性化（将来の共創と思い切った新しい分野への挑戦）を是非やって貰いたいと考えている。

- ・東京サテライトは現在、教育の場にのみ使われているという事だが、東京サテライトに入学する学生の内訳としては、どういう企業からの方々が多いのか。例えば、産業ではIT関係の人が多いのか、重厚長大の産業の方が多くないか。やはり継続性を考えた場合、例えば情報系の方々が多いのであれば、そういうものをテーマにしてより東京サテライトを活性化するような方向に持っていった方が良いのではないかと思う。

⇒東京サテライトに集まる学生の属性は、情報系のメーカー、サービス関係の企業などが中心であろうかと思う。技術に関してとりわけ強い関心があり、向学心も旺盛で、割合に問題意識が明確な人が相対的に多い印象がある。

正規学生として入学している方が大半だが、必ずしも学生を目指す方向けだけでないようなプログラムが東京サテライトにもっとあってもいいのではないか、ということも検討の視野に入っている。

- ・予算に関する審議事項の話の中で、授業料収入が令和5年度で4,700万円ほど減額が見込まれている、その理由というのが在籍学生数の減少だという説明があったが、一方で学生の入学状況を見る限り大幅に減少しているわけでも無いようなので、在籍学生数の減少に起因する授業料収入の減額分というのが何故発生しているのかが理解し難い。補足の説明をお願いしたい。

⇒まだ分析できていないが、授業料免除が増えているという点で、同じ人数が入っても授業料収入が減っていくという部分もある。

⇒授業料収入の減額分はそんなに小さい方では無かったと思うし、これからの国立大学法人の在り方を考えていく上でもおそらく授業料収入は無視できないウエイトを持ち続けてくると思うので、より詳細な分析を期待したい。

- ・エクセレントコアの取組みについて、エクセレントコアとして制度化するだけでなく、大学として財政面や人的面でもサポートするとか、あるいは継続的に大型科研費を獲って行くためのサポートをしていくとか、あるいはエクセレントコアが事業期間を終了した後、何らかの形でその成果を教育プログラムの中に反映させていくとか、色々な使い方やプロモーションの仕方があるだろうと思う。その辺りの考えについて補足の説明をお願いしたい。例えば、九州大学では主幹教授制度というのがあって、科研費の基盤Sや基盤Aのような大型種目を獲得すると、その研究実施期間中、学内の共同研究センターのような形でそれを制度化し、その研究代表者の方に主幹教授という称号を付与して、ただ制度化するだけではなく一定の人員配置を科研費の予算枠とは別にするとか、予算面でも若干のサポートをするといった仕組みがある。

⇒エクセレントコアは第3期中期目標期間の時に立ち上げており、当初は外部資金を獲得したチームを大学が支援するというコンセプトだったので、5,000万円という金額面での条件を課していた。その後、寺野学長が就任した時から、その制度ではやはり不確かだという事になり、金額面の条件に拘らず、大型の外部資金に十分挑戦できるような先生方の共創的環境・グループを支援するため、研究領域の特性に応じどういった評価指標で強いのかといった議論を交わしながら、向かっていく方向性を大学の方も見据えて支援するような形になっている。令和5年からこのような新しい概念でスタートするため、成長後の展望についてはまだ不確定な所もあるが、5年10年の規模で大学の真の知的基盤となるような構造を考えていく必要性は深く認識している。

また、このエクセレントコアには、例えば助教の優先配置や、多少の研究費に近い形での支援など、実はかなりの支援を行っている。

- ・海外大学との協働教育プログラムが積極的に展開されているという説明があったが、内訳を見ると比較的アジアにフォーカスを置いているように思う。これから国際戦略をどう考えていくのが課題としてあると思うが、これはJ A I S Tとしての地域戦略や国際戦略があってアジアにフォーカスしているのか、それとも今のところはまだそういった特定をしているのでは無くある程度属人的に提携校が決まってきたような経緯があるのか、その辺りの位置付けについて補足の説明をお願いしたい。J A I S Tの一つの強みとして、例えば国際共著論文が相対的に多く、その特性は国際連携を背景にしている面があると思う。そのような面を考えると、こういった協働教育プログラムというのは、将来の国際的共同研究の促進を進めて行く可能性もあるので、より選択的に提携校を選んでいくと良いのではないかと思う。

⇒こういう締結に至ったのは、属人的なコネクションがかなり効いているものと思う。また、欧米と行くとどうしても財政支援の面でかなりの金額負担になってしまうのに対し、アジアの場合だと割と経済的に負担が少なくなるという面もかなり背景にあるように思う。

国際連携、特にアジア系を中心にした連携というのは人と人との関係から発達してきた部分があり、やはり学生獲得という所が基本にある連携が殆どである。来年度には、国

際的な連携のポリシーをどう持っていくか、本学の持っている国際連携の在り方を組み立て直そうと考えており、飯田理事の方で計画を立てて貰っている所である。

- ・東京サテライトの有効活用は大変重要なポイントの一つであり、大学の代わりになるような窓口が都心部にあるということは非常に重要な意味があると思う。例えば、大学院説明会を行うとか、ディグリーのプログラムだけではなくノンディグリーのエグゼクティブプログラムを開設するとか、あるいは例えばDXというものに対する関心が高い場合はそこにフォーカスしたセミナープログラムを提供していくとか、といったことを実施しようとする場合に、品川オフィスは大変重要なリソースになると思うので、是非積極的な活用を考えると良いと思う。

⇒品川に関しては、東京サテライトの位置づけを徹底的に見直して、場所の移転も含め10年先20年先を見越した組み立て直しを意識しているが、東京サテライトに関わっている先生方からの総意も含め今の場所から動かさないという事になった。ただ、その条件として、昼の活用や赤字の縮小等も含めた東京サテライトの在り方について、東京に関わっている先生方も含めてしっかりと検討していかなければならないと考えている。

- ・マッチングハブについて、産業界から見てもこの取組みは非常に評価されていると思う。それで、今この取組みで上手くマッチングできたものは北陸RDXで事業化の支援もする仕組みが出来ている。この北陸RDXが、というかJ-NEXUSは期間限定のものなので、その後どうしていくかが非常に気になっているが、是非こういったものは継続的な取組みにしていきたいと思っている。またご協力をお願いしたい。

⇒まだ申請の段階だが、北陸地域産学連携拠点のような感じで、金沢を中心にして地域の中核という事で結構大きなファンドを要求している。その中で、マッチングハブをいつまでも北陸先端大単独の行事としてやっていくという事に少し限界があるかなという気がしているので、10回であることを機にそろそろ次のマッチングハブのあるべき姿の議論を始めたところである。予定どおり申請が通れば、そういった拠点を金沢に置いたうえで、北陸全体の活性化というものを全大学ともっと本気になって考えて動かすというところまで昇華できれば、そしてマッチングハブはその一つのイベントに過ぎない、というところまで持ち上げていければいいなと考えている。

- ・北陸RDXは始まって今2年弱だが、北陸は色んな事業の単位というか技術の次元というか、その密度が高い地域だという事を実感している。今、国の方が産学連携やスタートアップを一丁目一番地のように掲げており、どんどん色んな制度が出てきている状況で、しかし文科省は文科省で目的があり、経産省には経産省の目的があって、一つ一つが全部完全な訳ではないので、やはりその横の橋渡しをするという事が必須だという風に思っている。それが出来るのは、寺野先生と北陸先端大の産学連携の知能かなと思っており、基本的には向かっている方向は同じはずなので、各予算で出来ているプロジェクトの横の連携をやって、一つのアウトプットに向けたそういう役割も是非意識して頂きたい。それが、

マッチングハブの事実化、北陸先端大依存からの脱却に繋がっていくのではないかと  
思う。

<その他>

1 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催を令和5年6月22日（木）に予定している旨の説明  
があった。

## 資料

- 1—1 第105回経営協議会議事要録（案）
- 1—2 第106回経営協議会（書面付議）議事要録（案）
- 2 エクセレントコア拠点等の設置・廃止について
- 3 未来創造イノベーション推進本部社会連携機構地域イノベーション推進センターの設置について
- 4 第4期中期目標・中期計画における令和5年度年度計画について（案）
- 5 令和5年度評価実施計画の策定について（案）
- 6 令和5年度予算編成について
- 7 北陸先端科学技術大学院大学学則等の一部改正について（案）
- 8 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学職員就業規則等の一部改正について（案）
- 9 令和4年度 監事監査結果報告書
- 10 令和4年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告書
- 11 令和5年度当初予算（政府予算案）について
- 12 令和5年度運営費交付金予定額について
- 13 令和4年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」の開催報告
- 14 令和5年4月入学入試状況について
- 15 最近の本学の活動状況について
- 16 令和5年4月1日組織図（案）
- 17—1 研究について
- 17—2 教育について
- 17—3 産学連携について
- 参考 令和5年度経営協議会開催日程